

ロングトレイルを夢見る

10月4日、信州長和町で開催された第8回ロングトレイル・フォーラムに参加した。長和町内にある美ヶ原高原ホテル山本小屋と親しくお付き合いしている岩崎は、ひょんなきっかけで「霧ヶ峰・美ヶ原中央分水嶺トレイル」の顧問をお引き受けしている。今回フォーラムを開催するに際し長和町側の人間として、記念講演を担当することになった。顧問といっても、実際はお客サマでしかなかったから緊張してしまう。

ロングトレイルに先鞭をつけたのが信越トレイルであり、高島トレイルである。信越トレイルクラブ事務局長の木村宏さん、高島トレイルクラブ代表の前川正彦さん、八ヶ岳スーパートレイルクラブ理事長の米川正利さんも参加されて、熱気のあるフォーラムとなった。米川さんは我々の先輩で、黒百合ヒュッテのおやじさんだ。仕掛け人は、日本ロングトレイル協議会代表委員の中村達さん。昔からの知り合いで、エベレスト街道を一緒に歩いたこともある。協議会の会長は、かつて『山と溪谷』の編集長をされていた節田重節さん。なんだなんだ、知ってる顔が多いじゃん、おかげで緊張はぐんとほぐれた。

ロングトレイルはなにかというと、協議会側も一言では説明が付かないらしいが、登山よりは安全度が高いという印象を一般社会には与えるようだ。今年に入って俄然注目度が上がったのも、そんな印象が大きくひろがった結果であろう。登山より身近に感じるのだと思う。

しかし、考えてみると日本の山は岩山ではない。氷河があるわけでもない。日本の山は、ほとんどがロングトレイルのコースになるのではないか。安全管理、トイレ、レスキューなどの問題は棚上げにして、山から山をつないで自分の頭の中でロングトレイルを組み立ててみると楽しい。

ぼくが新人時代、トレーニングで歩いた奥多摩から高尾山はまさにロングトレイルだった。夜10時、青梅線御岳駅をスタートして御岳、大岳山、御前山、三頭山、笹尾根を下って和田峠から陣馬山に登り返し、高尾山まで歩く。まだ京王線が高尾山口まで伸びてなかったから、甲州街道を中央線の高尾駅まで歩いた。途中で陽が昇り、やがて陽が沈んで高尾駅到着は翌日の夜10時だった。

北アルプスを白馬岳から槍ヶ岳まで、ロングトレイルとして捉えたら面白い。が、岩場があったりして危険だから、身近の山に設定できたら楽しそうだ。東京周辺だったら奥武蔵がいい。飯能駅を出発点にして天覧山から多峯主山、大高山、伊豆ヶ岳、正丸峠、刈場坂峠、関八州見晴台、顔振峠、日和田山、下って飯能駅まで、地図をみているだけでワクワクしてくる。とはいうものの、まずはロングトレイルとして認定されているトレイルから歩いてみたい。1回目は霧ヶ峰・美ヶ原中央分水嶺トレイル、2回目は信越トレイル、3回目は高島トレイル。一緒に歩く人、この指と一まれ。